

「ゴールデンウィーク」によせて

～生徒のみなさん、保護者の皆様へ～

4つの祝日が続くゴールデンウィークにちなみ、今年度も、1年生は文部科学省発行の『私たちの道徳』、2年生は中学生人権作文コンテストの入賞作品、3年生は一昨年度に海南東ロータリークラブ40周年記念事業として寄贈された『心にしみる小さな5つの物語』を読んで、親子で読んで話し合っていたいただくことを計画しました。

学校にお寄せいただいたたくさんの感想文の中から、ほんの一部で恐縮ですが、紹介させていただきます。ご協力、有り難うございました。

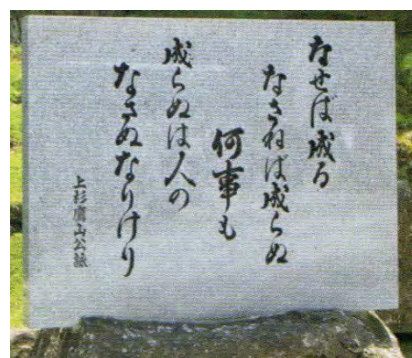
平成30年5月10日

海南市立第三中学校 人権教育部

【1年生】

【生徒感想】

これは、江戸時代、米沢藩主の上杉鷹山が言った言葉です。この意味は、「やればできる何事も、やらなければ何も始まらない」ということです。ぼくは、社会科の歴史が好きです。だから、この言葉は本で読んだことはあります。でも、意味は気にしませんでした。けれど、改めてこの言葉を見て、急に意味が知りたくなりました。そして、調べた結果が上の意味です。当時、米沢藩は多くの借金をかかえていました。だから、鷹山自ら倹約し、田畑を広げるため、くわを持ち働きました。そのおかげで鷹山が亡くなる時には、藩の借金はほとんど返していました。ぼくが、この言葉を知って思ったことは、まず何でもチャレンジする!!ということです。



(上杉鷹山「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」)

大切な人のために何かをしようと思うと「奇跡」を起こす。がんで余命3か月と診断され、つらい中、娘たちのことを誰よりも愛し、思うこと。その思いが1年8か月余命を延ばす力を与えてくれたんだと私は思います。体調が少しよくなると外出許可が出て、家に帰ることができたそうです。そのときはいつも台所に立ってお弁当を作っていたと書いていました。そのお弁当は、嬉しい気持ちもあるけど、切ない気持ちもあり、最後に作ってくれたお弁当は、いつも以上に美味しかったと思います。お母さんは、いつも子どものことを思い、「自分より大切だ」と思ってくれていることが、とても嬉しく思いました。



(鎌田 實「誰かのために」)

ぼくは、「はやぶさ」自体は知っていましたが、改めて読んで、そのすごさが分かりました。読んでいくうちに、研究所の人々の苦勞、努力が分かってきました。そして、帰ってきた時の喜びは計り知れないものだと思います。一番すごいのは、弱音をはかず、あきらめなかった人々です。壮大な旅をする人々は、やはりすごいと思います。いつか、ぼくもこのような大きいことを行いたいと思います。

(はやぶさプロジェクト)



【保護者感想】

見返りというあまり響きはいいものではないですが、単純に、その後の成果だと思っています。仕事だけではなく、日々の生活、子育てでも同じことだと思います。子供たちが20歳になるまで見守り、励まし、時には激しく怒ることも。親も共に子供と日々勉強。一人一人が違う人間なので、その子に応じて私も対応。一緒に成長していき、成人を迎えたときに、一つの区切りとして親の幸せを感じるのではないかと思います。その後も一生、人生の伴走者として、引き続き見守り助け合っていたらいいなと思っています。

(鈴木邦雄 「仕事の見返りは 相手の方が走れた感動です。」)



自分の子供がどういったことに興味を持つのか、どういったことを考えているのかを知る良い機会になりました。今までなら、考え方も似ているし、表情で子供の思いが読み取れました。しかし、中学生になり、何を考えているのか分からないときも増えました。子供の感想から、自分の考えをきっちり持っていることを知り、考えていることが分かり、成長していて嬉しく思いました。たくさんのコラムの中から、思いやりの内容のテーマを選び考えているので、「思いやり」のある大人になれることを期待しています。

(若田光一 「日本人の『思いやり』を世界が見ている。」)



子供の頃にアリを手に乗せた経験から地球を「生き物」ととらえ、その魅力を追究し、地震学者となった大木さんのメッセージを大変興味深く読みました。今後30年以内に8割の確率で発生するとも言われている南海トラフ地震。ここ和歌山も防災に関する研究や実践が進められて

いますが、人々の防災意識はまだまだ。そこには、人類の力は偉大で、地球の活動をコントロールできるはずだとたかをくくっている態度が感じ取れます。「地球という星に間借りして暮らしているのは、私たち人類の方で、私たちのために地球という星があるわけではありません。」という言葉は胸に響きました。

(大木聖子「私たちのために地球という星があるわけではありません。」)

